

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月20日

協議会名: 徳島県地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金、車両減価償却費等国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
					利用者数	収支率			
【記載例】 ○○バス(株)	申請番号1 ○○線 車両:○両導入	<前回の評価結果の概要> <評価結果の反映状況>	A 計画通り事業は適切に実施された。	R7実績(総数)	100,000名	67.89%	目標1:路線の維持 ○	○	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソナルダイヤへの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
				(1便あたり)	30名				
		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を振り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 大塚国際美術館や鳴門公園等の観光利用の増大と大型車両の導入による輸送力の拡大と、運賃改定による增收により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	対前年度比	102.34%	+1.23%	目標2:収支率改善 ○	○		
			対前々年度比	98.76%	-1.23%	目標3:車両の更新 ×			
徳島バス(株)	申請番号1 鳴門公園線	<前回の評価結果の概要> <評価結果の反映状況>	A 計画通り事業は適切に実施された。	輸送人員	収支率				次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソナルダイヤへの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
				R7実績(総数)	63,895名	90.8%	目標1:収支率改善 ○	○	
		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を振り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	(1便あたり)	34.9名					
			対前年度比	102.9%	+34.2%	目標2:輸送人員の維持(全系統合計) ○	○		
徳島バス(株)	申請番号2 鳴門下板線 車両:1両導入	<前回の評価結果の概要> <評価結果の反映状況>	A 計画通り事業は適切に実施された。	輸送人員	収支率				次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソナルダイヤへの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
				R7実績(総数)	92,476名	94.1%	目標1:収支率改善 ○	○	
		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を振り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	(1便あたり)	41.5名					
			対前年度比	104.1%	+5.3%	目標2:輸送人員の維持(全系統合計) ○	○		
徳島バス(株)	申請番号3 鳴門下板線	<前回の評価結果の概要> <評価結果の反映状況>	A 計画通り事業は適切に実施された。	輸送人員	収支率				次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソナルダイヤへの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
				R7実績(総数)	50,980名	48.8%	目標1:収支率改善 ○	○	
		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を振り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	(1便あたり)	27.9名					
			対前年度比	121.6%	+11.6%	目標2:輸送人員の維持(全系統合計) ○	○		
			対前々年度比	126.0%	+2.7%				

徳島バス(株)	申請番号4 鳴門下板線 車両:1両導入	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となつた。</p> <p>地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。</p> <p>また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。		輸送人員	収支率		次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーターナーダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
					R7実績(総数)	102,863名	68.7%		
					(1便当たり)	23.5名		目標1: 収支率改善 ○	
					対前年度比	123.1%	+17.1%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計) ○	
徳島バス(株)	申請番号5 鳴門上板線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となつた。</p> <p>地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。</p> <p>また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。		輸送人員	収支率		次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーターナーダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
					R7実績(総数)	72,004名	47.0%		
					(1便当たり)	21.2名		目標1: 収支率改善 ○	
					対前年度比	104.8%	+6.3%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計) ○	
徳島バス(株)	申請番号6 鳴門公園線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となつた。</p> <p>地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。</p> <p>また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 再編して日が浅く、浸透していない面もあり収支率の改善には至っていないが、空港と鳴門間を直結つなげる系統として、キャンペーンなどを通じて周知を行っている。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。		輸送人員	収支率		次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーターナーダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
					R7実績(総数)	37,457名	32.4%		
					(1便当たり)	17.6名		目標1: 収支率改善 ×	
					対前年度比	76.8%	-25.9%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計) ○	
徳島バス(株)	申請番号7 グリーンタウン線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となつた。</p> <p>地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。</p> <p>また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 運賃改定や路線の再編により改善が図られた。翌年にはグリーンタウン線の再編を行い更なる改善を図る。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	A	計画通り事業は適切に実施された。		輸送人員	収支率		次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーターナーダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
					R7実績(総数)	26,683名	47.6%		
					(1便当たり)	10.4名		目標1: 収支率改善 ○	
					対前年度比	126.5%	+12.6%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計) ○	

事業者名	申請番号	運行路線名	運行区域	評価結果の概要	評価結果の反映状況	計画通り事業は適切に実施された。	輸送人員	収支率	目標達成度		次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パートナーダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めています。 引き続き、ノーステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
									目標1: 収支率改善	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	
徳島バス(株)	申請番号8 錫冶屋原線 車両: 1両導入	<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノーステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったが、収支率改善達成には至らなかった。 翌年には、類似系統である名田橋線の再編を行うことで、通勤、通学の利用状況改善を図る。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	A	B	R7実績(総数)	62,518名	43.9%	目標1: 収支率改善	×	○	○
					(1便当たり)	21.5名					
					対前年度比	89.6%	-1.3%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)			
					対前々年度比	130.9%	+4.7%	目標3: 車両の更新			
徳島バス(株)	申請番号9 名田橋線	<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノーステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 運賃改定や路線の再編により改善が図られた。 翌年には名田橋線の再編を行い更なる改善を図る。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	A	A	R7実績(総数)	27,918名	39.0%	目標1: 収支率改善	○	○	○
					(1便当たり)	15.4名					
					対前年度比	85.6%	+1.6%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)			
					対前々年度比	116.0%	+0.2%				
徳島バス(株)	申請番号10 名田橋線	<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノーステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったが、収支率改善達成には至らなかった。 翌年には名田橋線の再編を行い更なる改善を図る。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	A	B	R7実績(総数)	24,271名	26.7%	目標1: 収支率改善	×	○	○
					(1便当たり)	14.2名					
					対前年度比	116.2%	-1.9%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)			
					対前々年度比	130.3%	-5.6%				
徳島バス(株)	申請番号11 北島藍住線	<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノーステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで增收により改善された。 利用状況は厳しく翌年に再編を行う。	A	A	R7実績(総数)	26,172名	52.3%	目標1: 収支率改善	○	○	○
					(1便当たり)	18.7名					
					対前年度比	115.6%	+7.2%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)			
					対前々年度比	152.6%	+10.9%				

事業者名	申請番号	路線名	評価結果の概要	評価結果の反映状況	計画通り事業は適切に実施された。	輸送人員	収支率	目標		次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソン代行の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。	
								目標1: 収支率改善	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)		
徳島バス(株)	申請番号12 応神藍住線		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 通勤通学に適したダイヤの設定や運賃改定を行ったことで増収により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	A	計画通り事業は適切に実施された。	R7実績(総数)	38,313名	48.0%	目標1: 収支率改善	○	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソン代行の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
						(1便当たり)	17.6名				
						対前年度比	129.9%	+13.5%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
						対前々年度比	167.0%	+11.9%			
徳島バス(株)	申請番号13 竜王団地線		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったことで増収により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	A	計画通り事業は適切に実施された。	R7実績(総数)	44,223名	54.1%	目標1: 収支率改善	○	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソン代行の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
						(1便当たり)	14.6名				
						対前年度比	109.0%	+5.5%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
						対前々年度比	154.1%	+10.2%			
徳島バス(株)	申請番号14 竜王団地線		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったことで増収により改善された。 利用状況は厳しく翌年に再編を行つ。	A	計画通り事業は適切に実施された。	R7実績(総数)	15,017名	29.0%	目標1: 収支率改善	○	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソン代行の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
						(1便当たり)	9.5名				
						対前年度比	129.9%	+4.7%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
						対前々年度比	108.0%	-3.4%			
徳島バス(株)	申請番号15 鴨島線 車両:2両導入		<前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出展するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、パリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。 <評価結果の反映状況> パーソン代行の設定や運賃改定を行ったことで増収により改善された。 車両のパリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。	A	計画通り事業は適切に実施された。	R7実績(総数)	70,381名	39.2%	目標1: 収支率改善	○	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーソン代行の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。 引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。
						(1便当たり)	20.0名				
						対前年度比	119.3%	+7.2%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
						対前々年度比	164.6%	+10.0%	目標3: 車両の更新	○	

徳島バス(株)	申請番号20 勝浦線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のバリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>計画通り事業は適切に実施された。</p>		輸送人員	収支率			
				R7実績(総数)	81,154名	48.3%	目標1: 収支率改善	○	
				(1便当たり)	25.7名				
				対前年度比	108.6%	+4.2%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
				対前々年度比	124.3%	+7.4%			
徳島バス(株)	申請番号21 あいさい線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のバリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>計画通り事業は適切に実施された。</p>		輸送人員	収支率			
				R7実績(総数)	24,583名	34.3%	目標1: 収支率改善	○	
				(1便当たり)	13.5名				
				対前年度比	93.5%	+9.7%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
				対前々年度比	179.5%	+154%			
徳島バス(株)	申請番号22 橋線 車両:2両導入	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 運賃改定を行ったことで增收により改善された。 車両のバリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>計画通り事業は適切に実施された。</p>		輸送人員	収支率			
				R7実績(総数)	167,367名	52.6%	目標1: 収支率改善	○	
				(1便当たり)	37.3名				
				対前年度比	95.7%	+10.1%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
				対前々年度比	150.6%	+16.4%	目標3: 車両の更新	○	
徳島バス南部(株)	申請番号23 丹生谷線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率の前年比+1%の改善目標は、24系統中14系統の達成となった。 地域のニーズに応じて大型商業施設経由とするなど積極的に路線再編を進めており、利用促進のために子供及びインバウンドのフリー乗車券の販売や、キャンペーンに出席するなど、需要を掘り起こす取組みが行われた。 また計画的に毎年ノンステップバスを購入しており、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。当該ビジョンに基づき、今後も運行の効率化及び利用促進を積極的に進められたい。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和6年10月1日より丹生谷線を徳島バス南部へ移管。 移管により経常費用△31,592千円削減、収支率11.8%改善となった。 車両のバリアフリー化は完了し、老朽化した車両の更新に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>計画通り事業は適切に実施された。</p>		輸送人員	収支率			
				R7実績(総数)	64,982名	43.5%	目標1: 収支率改善	○	
				(1便当たり)	17.8名				
				対前年度比	113.6%	+11.8%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○	
				対前々年度比	151.8%	+12.8%			

次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーキング代の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。
引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。

次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーキング代の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。
引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。

次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーキング代の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。
引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。

次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パーキング代の導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めいく。
引き続き、ノンステップバスの導入・更新を促進し、利便性の向上を図る。

事業者名	申請番号	路線名	評価結果		評価結果の反映状況	評価結果の概要	次世代地域公共交通ビジョンに基づく、運行の効率化、利便性向上の実現に向けた取り組み
			輸送人員	収支率			
四国交通(株)	申請番号24 祖谷線	A	R7実績(総数)	36,732名	37.8%	目標1: 収支率改善	×
			(1便当たり)	20.2名			
		B	対前年度比	100.0%	-1.0%	目標2: 輸送人員の維持(全系統合計)	○
			対前々年度比	113.0%	+8.3%		

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和8年1月20日

協議会名:	徳島県地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本県の広域的・幹線的なバス路線は、「徳島駅」を中心に県北部・県南部・県西部方面に放射状に展開しており、地域の中核的病院、公立高等学校、大学、大型ショッピングセンターなど各地域の主要な施設にアクセスしている。大都市に比べ公共交通網が発達していない本県にとって、複数の市町村に跨る広域的・幹線的なバス路線は、通勤・通学、通院、買い物など幅広く利用され、県民生活には欠かせない重要な移動手段となっている。特に過疎・準過疎地域では、この広域的・幹線的なバス路線が広域移動する唯一の公共交通手段(移動手段)として地域住民の日常生活の大きな支えとなっている。</p> <p>一方、人口減少や少子高齢化、モータリゼーションの進展などを背景に、公共交通機関の利用者は減少の一途を辿り、バス事業者を取り巻く経営環境は益々厳しい状況にある。特に他県と比較して高齢化が進行している本県では、運転免許証の自主返納も増加しており、自動車を持たない者又は利用が困難となる者が、今後増大することが容易に想像でき、交通手段の確保が大きな行政課題となっている。</p> <p>このため、本県では、国の「地域公共交通確保維持事業」を活用し、本県の広域的・幹線的なバス路線を確保・維持し、地域住民が生活する上で欠かすことのできない生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和8年1月20日

協議会名:	徳島県地域公共交通協議会
評価対象事業名:	車両減価償却費等国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	「地域間幹線系統確保維持費国庫補助金」の補助対象路線を運行するバス車両については、国の「車両減価償却費等国庫補助金」を活用することにより、計画的に更新を図ることで、輸送の安全性・快適性を確保するとともに、ノンステップバスの導入を促進し、高齢者など乗降に配慮が必要な利用者に対しても、その利便性の向上をさらに図ることとする。